

沖縄平和行動

71年前の沖縄戦では10万人もの沖縄県民が亡くなりました。沖縄では、基地の増強、爆撃機の騒音、米軍関係者による事件など、71年経過した今も続いています。

5.15 沖縄平和行進

5月13日～15日、「5・15沖縄平和行進」が行われ、全国から4,500人（高教組から青年部3人）が参加しました。5月15日は、1972年に沖縄の施政権が日本に返還された日です。「もう基地はいらない」その思いをかみしめながら沖縄の地を行進しました。

今まで見たことがあるもの、聞いたことがあるもの、全てをリセットして改めて学ぶつもりで参加しました。広大な基地、威圧されるフェンス、軍用機の轟音、小銃を持つ兵士、戦場跡やガマの生々しい様子、全てが自分の目で見て肌で感じてこそ、はじめてわかることができるのだと知りました。また、平和行進中に「ありがとう」「がんばって」と声をかけ、手を振ってくれる地元の方々、とりわけお年寄りの方たちの姿を見て、我々のようなものが全国から参加する意義がいかに大きいのがわかりました。

事実で語り、判断は委ねる。自分も実践していきたいです。

（青年部常任委員 澤口伸介）

今回で2回目の参加となりましたが数多くのことを学ばせていただきました。今年は昨年度行くことができなかつたガマに入ることができました。このガマで何日も不安な日々を過ごしていたことを想像すると、いかに悲惨な沖縄戦であったのかを改めて学ばされました。

また、青年部の学習会では「株式会社がゆちん」の話聞くことができました。同じ青年層の人が、会社を立ち上げ、社会貢献、沖縄の歴史のために一生懸命がんばっている姿を見ると、私もがんばらなくてはと、とても気が引き締まりました。沖縄戦の勉強をしても、沖縄県民の人にしかわからない思いや出来事があると思うので、この活動はぜひ続けてほしいと思います。

（青年部長 松本佳久）



東北ブロックの青年部の仲間と



行進の様子